



令和7年11月28日
12月号 No.482
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川623

『花はさかりに』～学校行事のみどころは～

副校長 中島 恵大

来週から12月になります。10月末には天候の試練を乗り越えての運動会、先週は感染症の試練を乗り越えての音楽会が行われました。どのような事態にも、学校として教育活動を止めないためにできる限りの最善策を考え取り組んでまいりました。保護者・地域の皆様の御理解と御協力をいただきながら実施できたことに改めて感謝申し上げます。

さて、表題の「花はさかりに」とは、私が高校生の時、国語の時間に学習した『徒然草』(作:吉田兼好)という随筆の一節です。「花はさかりに、月は隈(くま)なきをのみ見るものはかは…」という書き出して始まり、概要は「花(桜)は満開の時だけ、月は満月の時だけを美しいと感じる人は、趣がない。」ということです。作者は、物事を批判的に見る傾向があり、人によっては「ひねくれ者」と感じるかも知れません。しかし、作者は「花が散った後の姿や、雲が掛かって欠けている月の姿にも、満開の桜や満月とはまたちがった美しさがあるのだ。」とも述べています。



私は、「決して自分はひねくれ者ではない。」と信じたいのですが、学校行事に関しては『花はさかりに』で述べられている吉田兼好の考え方があてはまるのではないかと思っています。

もちろん、学校行事の「さかり」である「本番当日」の子供たちの全力で取り組む姿は、まちがいなく美しい姿であり、見る者に大きな感動を与えてくれます。これまでに行われた運動会でも、音楽会でも、子供たちの懸命な姿に鳥肌が立ち、目頭が熱くなることがしばしばありました。

ただ、学校行事のみどころは本番当日だけではないこともまた事実です。練習開始当初から少しづつ変容していく過程や、努力を重ねて苦手を克服する姿、つまずいても粘り強く取り組む姿…未完成の中にも「美しい姿」がたくさん見られます。そして、学校行事に関わる準備をする度に段々と士気が高まっていく姿や高学年の児童が会場準備で積極的に働いている姿…本番前にもまた「美しい姿」は随所に見られます。さらに、本番が終了後の達成感に満ちた晴れやかな表情や、テキパキと素早く片付けをする頼もしい姿…本番後にもやはり「美しい姿」は確実にあると感じています。

心を燃やして走り出そう 151年目のスタートダッシュ

スローガン
心を燃やして走り出そう 151年目のスタートダッシュ



スローガン
かなでよう みんなですてきな メロディー



このように、私は学校行事には本番当日以外の場面にもたくさんのみどころがあり、そのことを知れば、本番当日への感動もさらに増すのではないかと考えています。

2学期末には、学校行事の練習の様子を記した「振り返りカード」や「キャリア・パスポート」、さらに「通知表」が渡されます。ぜひ御家庭でお子さんと一緒に学校行事の本番当日に思いを馳せながら、本番前や本番後の美しさにも着目していただけると嬉しいです。

…そうするともしかしたら、吉田兼好への見方も変わるかも知れません。

学校支援ボランティアサポーター(ニ小くまっこ応援団)を募集しています。

本校の教育活動を支える学校支援ボランティア(ニ小くまっこ応援団)にご登録いただけの方を引き続き募集しています。

学校支援ボランティア(ニ小くまっこ応援団)は、保護者・地域の皆様が学校に集い、子供たちや教職員と共に、子供たちのための活動をすすめていくものです。できることを、できる時間に、無理なく支援することが基本で、どなたでも参加できます。子供たちの健全育成のために御協力をよろしくお願ひいたします。



登録用二次元コード